

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	音楽基礎B2
科目基礎情報				
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	ヴォーカリストコース	開設期 後期
対象年次	1年次	科目区分	選択	時限数 30時限
単位数	1単位			授業形態 講義
教科書/教材	毎回資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。			
担当教員情報				
担当教員	志鎌克彦	実務経験の有無・職種	有・レコード会社、プロダクション	
学習目的				
1960年以降の近代ポップスの歴史から紐解き現在までの音楽事情を業界の流れに沿って学び、ITの時代に新しい音楽（ハード・ソフト）でいかに人を魅了できるか課題解決学習を中心にチームで検討していく。CDリリースとライブの関係性が崩れアーティストを売り出すテクニックはどのように変化していったのか？テレビが中心であった時代からネット全盛期の今日におけるプロモーションやデビューの方法の移り変わりなどを知り全学生がマネージャーになってみたらの視点で考えてみる。				
到達目標				
音楽史を学ぶと同時に社会背景を学び高度経済成長期からバブル時代、90年代バブル崩壊後は新たな手法の音楽メディアの登場と海外に後れを取る日本の音楽事情。更にはIT分野との音楽の関連性と未来に向けての取組を個々の学生が明確な課題を持って取り組む事が出来る。				
教育方法等				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ■授業では、音楽史を中心に世界の歴史を学ぶ。（一般教養的な授業） ■ヒット曲の背景にはどんな経済の動きがあったか？新しいメディアの登場によりマネジメントの手法はどう変わり、今後はどう進化していくのかチームごとで検討して行く。 			
注意点	この授業では音楽の歴史を探りながら社会との関連性を学び音楽ビジネスがどう移り変わって来たのかを知る。そのため単に音楽史を学ぶのではなく日本さらには世界の現代史を深く学ぶことが焦点である。社会に出るうえで必要な一般教養知識を学ぶための授業である。現在の音楽業界事情から、アーティストと音楽業界スタッフのあらゆる面での関わり方など、アーティスト周りの人間関係も意識できる授業になる。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。			
評価方法	種別	割合	備 考	
	試験・課題	80%	試験と課題を総合的に評価する	
	小テスト	0%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	レポート	0%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	成果発表 (口頭・実技)	0%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する	
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する	
授業計画（1回～15回）				
回	授業内容	各回の到達目標		
1回	ガイダンス	ガイダンス：（学ぶポイント）		
2回	現在の音楽事情	学生たちの趣味趣向と一般的な音楽事情		
3回	アーティストが生み出すモノと様々な仕事①	日本と海外の音楽業界全体像		
4回	アーティストが生み出すモノと様々な仕事②	ライブビジネスとレコードメーカーの関連性		
5回	アーティストが生み出すモノと様々な仕事③	なぜCDは売れなくなったのか？社会背景からの視点		
6回	アーティストが生み出すモノと様々な仕事④	レコード店は本当に要らないのか？Youtubeから見る企業戦略		
7回	アーティストが生み出すモノと様々な仕事⑤	マネジメントの仕事（売りだし方の変化）		
8回	アーティストが生み出すモノと様々な仕事⑥	新しい音楽メディアの登場		
9回	アーティストが生み出すモノと様々な仕事⑦	音楽とICTとの関連性と今後に期待できる事		
10回	グループワーク①	アーティストを「有名にする」ための会議		
11回	グループワーク②	アーティストを「有名にする」ための会議（発表）		
12回	アーティストが生み出すモノと様々な仕事⑧	音楽出版社と著作権		
13回	アーティストが生み出すモノと様々な仕事⑨	ライブ・エンターテインメント論（1）		
14回	アーティストが生み出すモノと様々な仕事⑩	ライブ・エンターテインメント論（2）		
15回	まとめ	まとめ 及び 前期試験対策		